

## 2007年(平成19年)度 第5回常務理事会記録

日時：2007年(平成19年)9月8日(土)10:00~11:45

場所：東京大学医学部 教育研究棟 2階 第3セミナー室

出席者：柴田洋三郎(理事長)、牛木辰男、内山安男、岡部繁男、藤本豊士(以上、常務理事)、依藤 宏(常任幹事)、天野恵子、川村知子(以上、口腔保健協会)

### . 会議記録の確認

2007年(平成19年)度第4回常務理事会記録、同摘録(案)

### . 報告事項

#### 1. 庶務報告(岡部庶務担当理事)

##### (1) 会員異動報告(正会員2,151名、平成19年8月31日現在)

平成19年6月分(入会者 正会員2名、学生1名、退会者 正会員4名、学生3名)

平成19年7月分(入会者 正会員3名、学生1名、退会者 正会員1名)

平成19年8月分(入会者 正会員1名、学生5名、退会者 正会員1名、学生3名)

逝去会員：工藤規雄氏(北海道大学名誉教授/名誉会員)平成19年5月1日逝去(享年82歳)、佐藤 堅氏(鹿児島大学名誉教授/名誉会員)平成19年6月29日逝去(享年94歳)、沢野十藏氏(広島大学名誉教授/名誉会員)平成19年7月23日逝去(享年93歳)、森 富氏(東北大学名誉教授/名誉会員)平成19年8月31日逝去(享年86歳)

##### (2) 持ち回り理事会の結果報告

次項の文部科学省実地検査結果を受けて、急遽メール会議により開催されることになった平成19年度第4回理事会の結果について、報告がおこなわれた。(詳細については平成19年度第4回理事会記録をご参照下さい。)

##### (3) 文部科学省による実地検査結果報告

平成19年5月15日に実施された実地検査結果の通知が文部科学省より届いた。主な指摘事項は以下である。理事等だけでなく、資産についても登記をおこなうこと。会計処理規則を作成すること。収支予算書、収支計算書に備考欄がなく、所定の様式に則って作成すること。指摘事項に対しては早急に対策を講じ、結果を文部科学省に報告することになった。

##### (4) 支部学術集会の指針について

支部学術集会の運営に関して、学部学生が発表する場合は解剖学会に入会する必要があるか。一般、学生ともに参加費は共通か の質問が届いた。に

関しては若手育成の観点から、学部学生の研究発表に正会員の資格を要求する必要はなく、今後は年度ごとに承認を得ずとも支部学術集会では学部学生に発表の資格を認めることとする。 については、参加費はそれぞれの担当校の判断で決定してよい。以上の常務理事会見解が示され、支部長宛に連絡したことが報告された。

(5) 学会宛文書等

通知・依頼 財)ブレインサイエンス振興財団より「第22回塚原仲晃記念賞他の推薦依頼について」他12件の通知・依頼が届いている。なお、実施予定の公益法人の認定に関連して、文部科学省より「会員のみを対象とした事業の有無とその理由」に関するアンケートがメールで届き、回答した旨、報告があった。

書籍、定期通信他 財)日本学術協力財団より「学会の動向2007.7~8」他2件の書籍、定期通信が届いている。

2. 編集報告(藤本編集担当理事)

(1) 解剖学雑誌及びASI刊行報告

両誌の82巻3号が予定どおり刊行されたことが報告された。

(2) ASI編集委員会の規約整備について

標記規約(案)について、委員の意見を聞いた結果が報告された。

(3) 解剖学雑誌の今後の編集方針について

標記の編集方針(案)について委員の意見を聞いた結果が報告された。

(4) その他(アーカイブについて)

電子アーカイブ掲載の件でJSTに問い合わせていた回答が届き、解剖学雑誌については未掲載であり、対象雑誌とはなっていないことが判明した。今後、掲載を要望してゆくことになった。

3. 企画・渉外報告(内山企画・渉外担当理事)

(1) 2007(平成19)年度総会・全国学術集会開催報告

標記総会・全国学術集会の遠山正彌会頭より収支決算書及び事業報告書が提出され、承認された。

(2) 2008(平成20)年度総会・全国学術集会準備状況報告

標記総会・全国学術集会の藤倉義久会頭より、準備状況の報告書が提出され、承認された。

(3) 2011(平成23)年度総会・全国学術集会開催校募集

東京で医学会総会が開催される年の標記総会・全国学術集会開催校について、募集がおこなわれているが、希望の申し出はまだないことが報告された。

(4) 二級解剖技術士審査結果

解剖組織技術士資格審査委員会 年森清隆委員長より申請者3名について合

格と判定した旨、連絡があったことが報告された。

(5) 学術集会の合同開催に関する日本生理学会との懇談結果

合同開催については基本的には大きな障害はなく、可能であること。2009年の岡山での解剖学会の際に連携シンポジウムを開催し、2011年の東京での学術集会を合同開催とするなどで、合意に達したことが報告された。(この項は岡部理事よりの報告)

(6) 2008(平成20)年アメリカ解剖学会への演者派遣について

アメリカ解剖学会シンポジウムへの演者の派遣に関して、日本側から提案した東京大学岡部繁男教授、慶応大学仲嶋一範教授で合意する旨の連絡があったことが報告された。

4. 会計報告(牛木会計担理事)

(1) 平成19年度中間決算報告

8月末までの中間決算書をもとに、報告がおこなわれた。特に大きな問題はないとのことである。

. 審議事項

1. 新入会員の承認

資料をもとに審議がおこなわれ、全件承認された。なお、この審議については文部科学省の立ち入り検査における指摘をもとに実施されることになったものである。

2. 教授就任による学術評議員審査

1件の申請書をもとに審議がおこなわれ、承認された。

3. Anatomische Gesellschaft(AG)との交流について

柴田理事長よりAGのKorf前会長、Baumgart-Vogt現会長との懇談結果について報告があり、日本解剖学会とAGの間には問題意識として共通する点が多くあり、交流を進める。具体的には2008年度の大分の学術集会にAGより一人を招待し、翌年は日本からAGに出向くと言う案が提案された。この件について、審議がおこなわれ、承認された。

4. 科研費の申請方針について

標記について確認がおこなわれ、承認された。

5. 就業規程(案)、職員給与規程(案)、職員退職手当規程(案)について

文部科学省の立ち入り検査において整備するよう指摘のあった標記規程に関し、案が提出され、審議の結果承認、理事会に諮られることになった。

6. 事務処理規程(案)について

前項と同様に、文部科学省の立ち入り検査において整備するよう指摘のあった標記規程に関し、案が提出され、審議の結果承認、理事会に諮られることになった。

7. 未収金について

解剖学雑誌の著者負担金については 2006 年度末までに 213,450 円が未収金となっている。このうち、79 巻 3 号の未収金 25,450 円に関しては損金扱いにすることが提案され、承認された。

8 . その他

( 1 ) 規程集の編集について

事務局において編集をおこなうことが了承された。

( 2 ) 公益法人制度改革に関して

公益法人制度改革に対する他学会の対応が紹介された。

9 . 理事会・常務理事会の日程について 次回 常務理事会は 12 月 15 日(土)11:00 ~、  
理事会は 14:00 ~ 八重洲倶楽部において開催することが決定された。